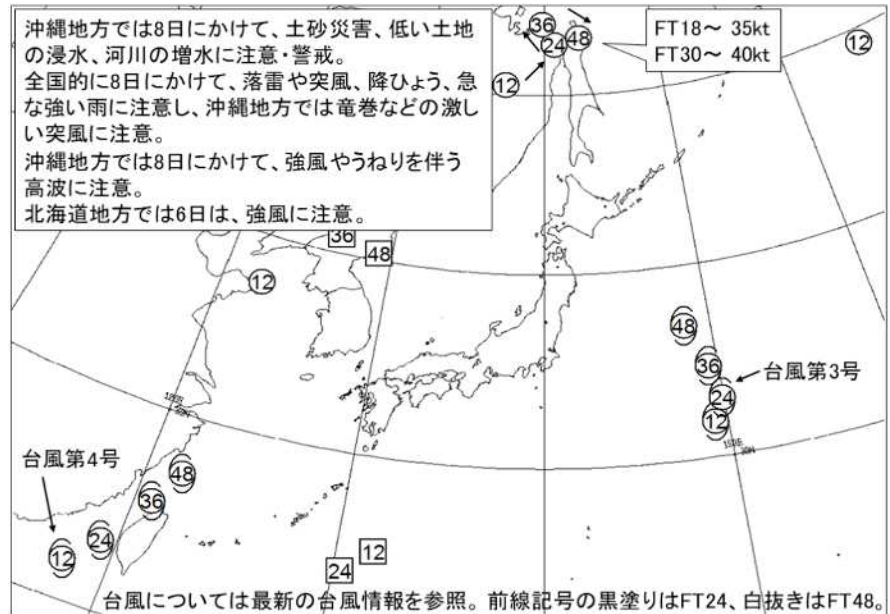


1. 実況上の着目点

- ① 台風第3号が日本の東を東進。また、台風第4号が南シナ海をゆっくりと北北東進。
- ② 東シナ海を西進する上層寒冷低気圧（UCL）と①の台風第4号周辺の下層暖湿気の影響で、沖縄の近海で雷を多数検知、激しい雨や非常に激しい雨を解析。
- ③ 500hPa 5880m以上の亜熱帯高気圧に対応して地上の高気圧が日本の南に停滞。
- ④ アムール川中流付近には500hPa 5640m付近のトラフに対応した低気圧があって北東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風第4号は、6日は南シナ海から台湾海峡に進み、7日は台湾海峡から東シナ海に進む。1項②のUCLは、6日は東シナ海から華中付近に、7日は華北付近に進む。沖縄地方では8日にかけて、上空寒気や台風第4号周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。また、台風第4号の接近により気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなりしける所がある。沖縄地方では8日にかけて、強風や高波に注意。
- ② 1項③の高気圧は、7日にかけて日本の南を西に移動して8日には不明瞭となる。また、別の高気圧が8日にかけてモンゴルから日本海へ移動し、本州付近は8日にかけてこれらの高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇し広く真夏日となり、猛暑日となる所がある。熱中症など健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ③ 西～東日本では8日にかけて日中の昇温により山地を中心に大気の状態が不安定となる。特に7日～8日は、日本の南は気圧の谷となって太平洋側に南から湿った空気が流入し、日本海に中心を持つ高気圧の縁で日本海側に湿った空気が流入する。西～東日本では8日にかけて落雷や突風、降ひょうに注意し、東日本では7日～8日は、西日本では8日は、短時間強雨に注意。上空の風が弱く、対流雲の動きが遅くなるため、同じ場所で降水が持続して雨量が増えるおそれがあることにも留意。
- ④ 1項④の低気圧は、6日夜にはサハリン付近へ進み、その後は8日にかけてサハリン～オホーツク海で動きが遅くなる。低気圧の影響で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き波が高くなる所がある。北海道地方では6日は、強風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：沖縄5m。③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。